

ONO

VOL.01

HOUSING



家は、ずっと続いていく。

ONO CONSTRUCTION
小野建設株式会社

BUILT FOR LIFE

考える順番。

家づくりは、そこからはじまります。

住まいを考えはじめると、多くの人はまず間取りやデザインを思い浮かべます。

どなりリビングにするのか。

どんなキッチンにするのか。

どんな外観にするのか。

雑誌やインターネットには、さまざまな住まいの事例が紹介され、

性能や設備についても多くの情報を見ることができます。

もちろん、それらは住まいを考えるうえで大切な要素です。

けれど私たちは、その前に考えることがあると思っています。

それは、その場所で過ごす時間です。

朝、どこで光を感じるのか。

帰宅したとき、どこでほっとするのか。

休日に、家族はどこで過ごすのか。

住まいは建物であると同時に、日々の時間が重なる場所でもあります。

だからこそ私たちは、家づくりには順番があると考えています。

暮らしを伺い、土地の条件や周囲の環境を読み取りながら、

その場所に合った住まいの方向を少しずつ見つけていく。

その積み重ねが、時間が経っても無理のない住まいにつながると、私たちは考えています。



家づくりには、順番があります。

住まいには、間取りやデザイン、性能など多くの要素があります。
けれど大切なのは、何から考えるかという順番です。

住まいは、暮らしの時間が積み重なる場所です。
まずは、そこで流れる時間を想像する。
そして、その土地の光や風、周囲の環境を読み取りながら、
少しずつ空間のかたちを整えていく。
そうしてはじめて、その土地にふさわしい住まいが見えてきます。

小野建設では、この「考える順番」を大切にしています。
それは、大規模な建築に携わるなかで培ってきた考え方もあります。
工場や施設などの建築では、
最初の判断が建物全体のあり方を左右します。
順序を誤れば、後から整え直すことは簡単ではありません。
だからこそ建築では、最初に何を考えるかをとても大切にします。

この考え方は、住宅づくりでも同じです。
暮らしを考え、土地を読み、その場所に合ったかたちを思い描く。
その積み重ねが、長く安心して住み続けられる住まいにつながると
私たちは考えています。

INTERVIEW

暮らしを想像することから、 設計は始まります。

住まいの設計は、図面を描くことから始まるわけではありません。どのように暮らし、どのような時間を過ごしていくのか。その輪郭を知ることから、住まいの形は少しずつ見えてきます。土地の環境に合わせて、どんな暮らしが心地よいのかを考えること。

その積み重ねが、長く使い続けられる住まいにつながっていきます。皆さんが思い描く暮らしについて、設計士に話を聞きました。



• 企画デザイン部 設計統括 M.S •

設計士は、どのように住まいを考えているのか。
小野建設の建築について、設計士に聞きました。

——設計を考えると、最初に大切にしていることは。

ご相談をいただくと、まずはお話を伺います。

どんな暮らしをされているのか。一日の過ごし方や、ご家族との時間。

図面の前に、生活の輪郭を知ること。それは、設計に入る前に欠かせない作業だと考えています。

——設計の進め方で、大切にしている順番はありますか。

間取りや設備の前に、「どう暮らしたいか」を整理します。

見た目や機能を先に決めると、あとにズレが残ります。暮らしの前提を共有してから、設計に入ります。

——大型建築の経験は、住宅にどう活かしていますか。

規模の大きな建物は、完成後に簡単には直せません。そのため初期段階で、人の動きや使い方を想定し、計画を組み立てます。精度が足りないと、不便さは残り続けます。

住宅でも同じです。どこまで考えられるかが、その後の住み心地を左右します。

——土地を見るときは、どんなことを考えていますか。

光や風、周囲との距離、窓からの景色。その場所に立ち、建物の配置や開き方を考えます。

図面だけでなく、敷地に合う形を探ることも大切にしています。

——小野建設の家づくりで大切にしていることは。

住まいに、ひとつの正解はありません。

だからこそ、条件を重ねながら、その場所に合う形を見つけていきます。

派手さよりも、使い続けられること。それが、長く心地よい空間につながると考えています。

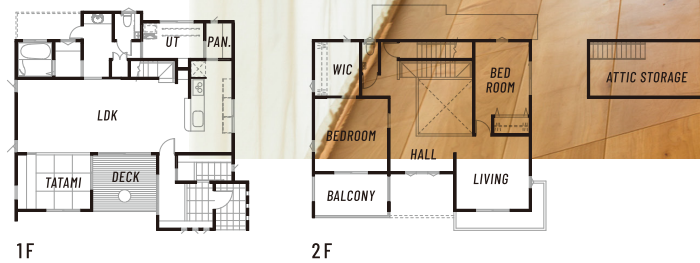
暮らしから整えた家



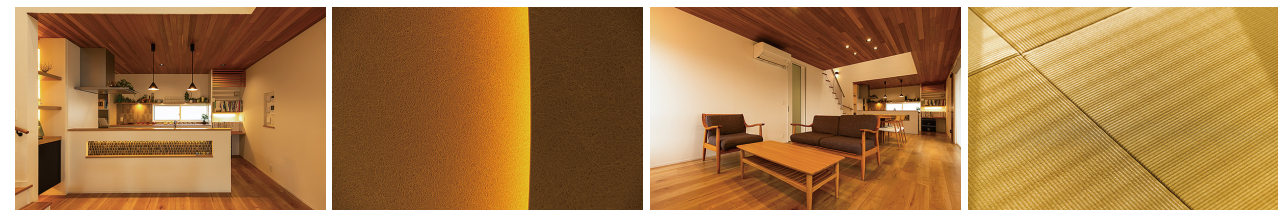
山形の冬は長く、厳しい寒さが続きます。朝晩の冷え込みや雪の多さは、この土地で暮らす人にとって、日々の生活と切り離せないものです。一方で、夏には強い日差しや暑さもあり、季節ごとの環境変化は決して小さくありません。

「花暖の家」は、そうした土地の気候と向き合いながら、一年を通して無理なく過ごせることを大切に考えた住まいです。ただ暖かいだけでなく、暑さや寒さに生活を合わせるのではなく、自然なリズムのまま日々を過ごすこと。そのために、断熱や構造、空気の流れまで含めて、建物全体のバランスを整えています。部分的な性能だけでなく、住まい全体として快適さが続いていくことを大切にしています。

また、快適さだけでなく、家族が自然と集まり、穏やかな時間を共有できることも、この住まいが大切にしていることの一つです。「花暖の家」は、この土地での暮らしを、長く心地よく支えるために生まれました。



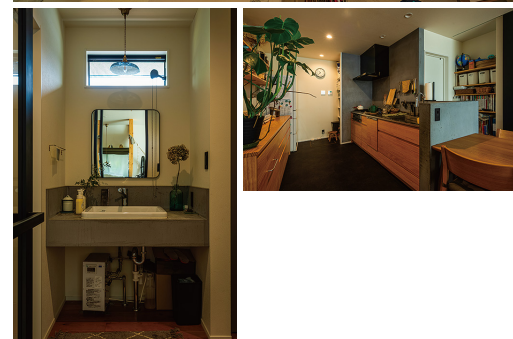
この住まいは、暮らしを考えるとところから設計が始まりました。
朝の光が入るリビング。庭とつながる窓。
家族の時間や動線を丁寧に整理しながら、少しずつ空間の形を整えていきました。
その積み重ねが、この住まいの心地よさにつながっています。





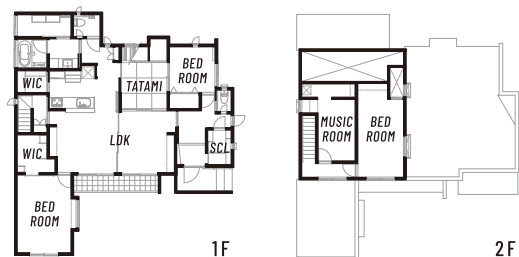
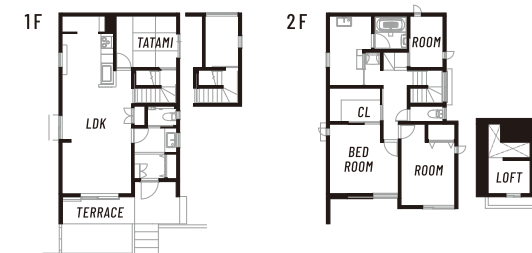
ONO_CASE.01
住環境に根ざした家

EACH HOUSE
それぞれの暮らし、
それぞれの家



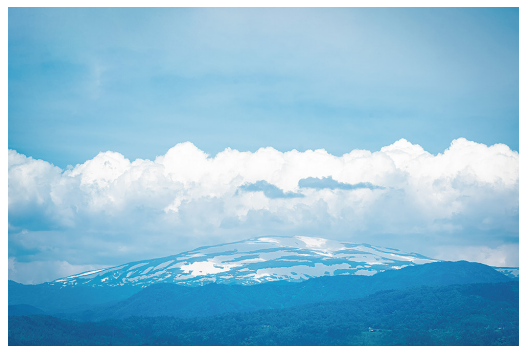
やりたいことを詰め込んだ、
ある家族の理想の住まい。

南向きのリビングには大きな窓を設け、子どもたちがのびのびと過ごせる空間に。焼杉と植栽を組み合わせた外観は、街中にありながら落ち着きと遊び心を感じさせます。西陽を抑えながら光を取り込むことで、室内にはやわらかな明るさが広がります。水まわりは二階へまとめ、子どもたちの遊び場としてロフトを設けました。限られた敷地の中でも、家族それぞれの時間を大切に、心地よく暮らせるよう工夫しました。街中であることを忘れるほど、穏やかな空気が流れる住まいです。



月山の眺望を楽しむ、
環境を活かした住まい。

大きく開かれたリビングダイニングの先に、和室がゆるやかにつながる。二階には音楽を楽しむ空間と主寝室を設け、窓の先には、りんご畑から続く月山の風景が広がります。和室には高さのある障子を採用し、縦への広がりを意識した空間に。周囲の自然や光の変化を感じながら、日々をゆったりと過ごせるよう計画しました。季節ごとに表情を変える風景が、暮らしの中へ自然と入り込み、住まいに静かな豊かさを与えてくれます。風景と暮らしが自然につながる住まいです。



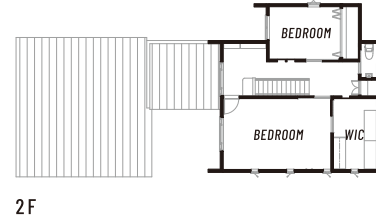
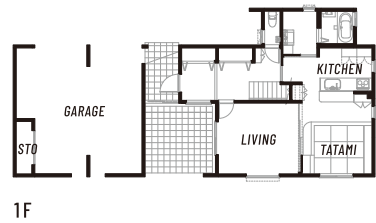
私たちは、住まいの形を決めつけることはありません。
住む人が違えば、暮らし方も違います。
心地よいと感じる空間も、それぞれです。
だからこそ、お客様の話を丁寧に伺いながら、
一つひとつの住まいをつくっていきます。
ここでは、それぞれの暮らしに寄り添って生まれた住まいをご紹介します。

ONO_CASE.02
遊び心あふれる街中の家



邸宅のような佇まいと、
心地よさを備えた住まい。

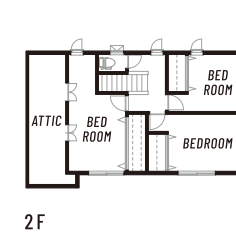
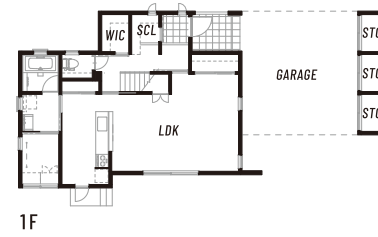
玄関を開けると、大理石を用いた白い空間が広がります。室内は白を基調にまとめながら、シーリングファンや造作収納を取り入れ、心地よさと使いやすさにも配慮しました。リビングに続く小上がりの畳スペースは、家族それぞれが自由に過ごせる場所に。郊外の穏やかな環境とも調和し、朝の光がやわらかく差し込む住まいです。静けさの中に落ち着きと温かさを感じられる空間に仕上げました。



白を基調とした、
スタイリッシュな家



木のやわらかな質感を求めた家



天然木のやわらかな質感が、
家全体に満ちた住まい。

室内には随所に天然木を取り入れ、足触りや空気感までやわらかく感じられる空間に。カーテン越しの穏やかな光も重なり、静かに時間が流れる住まいとなっています。趣味を楽しむ書斎や、大型のガレージなど、これから先の暮らしも見据えながら計画。子育てが落ち着いた後も、無理なく心地よく過ごせること。木の質感に包まれながら、季節の変化や日々の時間を穏やかに受け止められるような、自然体で暮らせる住まいを目指しました。



ARCHITECTURE
&
HOUSING

建築の考え方で、 家をつくる。

小野建設は、住宅だけでなく公共施設や工場など、さまざまな建築に携わってきました。規模の大きな建物では、最初に何を決めるかによって建物全体のあり方が変わります。順番を誤れば、後から簡単に整え直すことはできません。この考え方は、住宅づくりでも同じです。暮らしを軸に考え、土地や環境を読み取りながら住まいの形を整えていく。私たちは建築の現場で培ってきたこの考え方を、住宅づくりにも大切にしています。

PEOPLE OF ONO
家づくりは、私たちの仕事です。



• 取締役 住宅工事部長 K.K •
入社年：1990年 干支：亥年



• 企画デザイン部 営業係長 T.O •
入社年：2011年 干支：亥年



• 住宅工事部 主任 M.K •
入社年：2000年 干支：酉年

見えない部分こそ、
建物の質を支えています。

建物は、完成すると見えなくなる部分によって支えられています。構造や下地など、普段は意識されない部分こそが、建物の品質を決めるからです。現場では、多くの協力会社と一緒に、一つの建物をつくり上げています。それぞれの職人が同じ意識を持ち、真心を込めて丁寧な仕事を積み重ねること。その積み重ねが、安心して住み続けられる家につながっていきます。家づくりは、お客様との信頼関係の中で完成していくものです。引き渡しの際に「あなた達に任せてよかった」と思っていただけることが、私たちにとって何より大切なことだと考えています。それこそが、私たちが仕事のやりがいを感じる瞬間です。

世界に一つしかない
「作品」をつくる。

住まいは、住む家族や土地、そしてその時々暮らしによって、少しずつかたちが変わっていきます。同じものは、ひとつとしてありません。だからこそ私は、住まいづくりを「現地一品生産」だと考えています。打ち合わせでは、これからの暮らしを思い描きながら、自然と夢が広がっていきます。その一方で、安心して施工を進められることも施主様の計画を守るために大切なことです。コストや外まわりの仕様も含めて、できるだけ早い段階から一緒に考えています。そうやって、より理想に近く、心地よい暮らしを実現できる住宅を提供することが、自らに課せられた使命だと考えています。

丁寧な仕事を
積み重ねること。

仕事をするとき、いつも心に置いているのは素直な気持ちでいることです。妥協せずに、丁寧に仕事をする。そして感謝を忘れないこと。当たり前のことですが、その一つひとつが信頼につながります。家づくりは、数多くの人に関わる仕事です。だからこそ、その場にいる全員で同じ方向を向いて、一つの家をつくっていく。その過程を、大切にしたいと思っています。現場で過ごしてきた時間は、今の仕事にもつながっています。その経験をもとに、無理のない計画や進め方を考えるようにしています。一つひとつの判断が、その後の使いやすさや安心につながる。その感覚は、立場が変わっても変わることはありません。

Q & A

家づくりは、
たくさん
の疑問から
はじまります。

Q1.家を建てるタイミングは、いつがいいのでしょうか。

家づくりに、完璧なタイミングはありません。大切なのは、今の暮らしとこれからの時間をどう考えているかです。無理なく続けられる計画かどうか。そのことを一緒に整理するところから、家づくりは始まります。

Q2.予算は、どこまで考えておくべきですか。

建築費だけでなく、その後の暮らしも含めて考えることが大切です。家は完成して終わりではなく、住み続けていくものです。生活に余白が残るかどうか。私たちは、そこまで含めて計画を考えます。

Q3.子どもが成長したあとも、使いやすい家にできますか。

家族の形は、時間とともに変わっていきます。だからこそ、最初から決めすぎない設計や、使い方を換えられる余白を意識します。「今」だけでなく「その先」まで見据えることが、長く住みやすい家につながります。

Q4.流行のデザインを取り入れても大丈夫でしょうか。

流行そのものが悪いわけではありません。ただ、時間が経ったときにも違和感が出にくいかどうかは、一度立ち止まって考えたいポイントです。長く使う住まいだからこそ、自分たちらしい判断を大切にしてほしいと思います。

Q5.性能や数値は、どこまで重視すべきですか。

性能は、暮らしを支える大切な要素です。ただし、数値だけが目的になってしまうと、本来の暮らしから離れてしまうこともあります。どんな毎日を送りたいのか。そのイメージと合わせて考えることが大切だと考えています。

Q6.家づくりで後悔しやすいポイントは何ですか。

多くの場合、「急いで決めてしまったこと」が後から気になります。納得できるまで考える時間を持つこと。それ自体が、失敗を減らす大きな要素になります。

Q7.相談に行く前に、準備しておくことはありますか。

特別な準備は必要ありません。今の暮らしのこと。少し先の不安。まだ言葉になっていない希望。そうしたことを、そのままお話しください。家づくりは、そこから一緒に考えていくものです。

MODEL HOUSE

ZEH基準の花暖の家 籠田モデルハウス

家があたかいことは、住まいの基本です。小野建設では、山形の気候に合わせた高気密・高断熱の住まいづくりを行っています。

発泡ウレタン断熱材やLow-E複層ガラスなどを採用し、一年を通して快適な室内環境を実現しています。また、外観やインテリアにはシンプルモダンの中に和の要素を取り入れ、落ち着きのある住空間を提案しています。常設での展示をしていますので、いつでも内覧を行えます。



長らく住まうことを前提に、暮らしやすさを考慮して設計しています。

●所在地 / 山形市籠田1-3-18 見学受付 / 10:00-17:00 お問い合わせ先 / 0120-451-858

GROUP COMPANY

有限会社 ショーエー・アドバンス

不動産を取り扱う関連企業もございます。まずは土地を探るところからというお客様にも、自信を持っておすすめできるパートナー企業です。土地有効利用のための企画・設計・開発から、不動産賃貸借の仲介、不動産の売買や、売買の仲介を行っています。こんな土地を探しているという、シンプルな相談事にも対応してくれる会社です。理想の土地に、理想の家を。そんな願いに寄り添うことをモットーにしています。



【事業内容】

不動産賃貸借の仲介 / 不動産売買・売上の仲介
建売分譲 / 土地有効利用のための企画・設計・開発
不動産の買取

【免許番号】

山形県知事(6)第1824号
(公社)山形県宅地建物取引業協会会員
東北地区不動産公正取引協議会加盟

●住所 / 〒990-0833 山形市城南町3-5-1 電話番号 / 0120-43-5445 E-mail / info@showei-adv.co.jp

LOGO MARK

人、街、未来。



私たちのロゴにある「人・街・未来」という言葉には、ものづくりに向き合う姿勢が込められています。建物は、人の暮らしを支え、街の風景の一部となり、長い時間の中で使われ続けていくものです。そのため私たちは、見た目や機能だけではなく、どのように過ごし、どのように使われていくのかを考えながら、建物と向き合ってきました。住宅から大型建築まで、用途や規模が変わっても、その考え方が変わることはありません。人を起点に考え、長く使い続けられるものをつくること。1992年に生まれた「人・街・未来」という言葉は、今も変わらず、私たちのものづくりの原点です。

小野建設株式会社

◎住宅だけでなく、公共施設や工場など多様な建築に携わっています。

代 表 者 / 代表取締役 小野和行

所 在 地 / 【本 社】

〒990-2484 山形県山形市籠田一丁目6番7号

TEL.023-645-1818 / FAX.023-643-5889

【朝日町支店】

〒990-1304 山形県西村山郡朝日町大谷1348番

TEL.0237-68-2453

H P / ono-const.co.jp

登録・許認可 / 一級建築士事務所

山形県知事登録(1712)第635号

建設業許可 / 山形県知事許可(特-3)第100497号

山形県知事許可(般-3)第100497号

